

富原文庫蔵川越藩城制絵図目録

しろはく 古地図と城の博物館 富原文庫
平成16年6月28日

- 凡例 1) 本図の基本寸法は高さ40cm幅の巻紙で、1図之幅42cmを基本とし、解説文部分があるものは幅が広く、84cm まであります。(1のみ表紙つき冊子、他は巻物ですが、保存の関係で、1図毎40X42cm の折帳としています。)
- 2) 城郭図数は345図(NO は347、内1図関が原図残欠、1図は無地)。
- 3) 活字化は作成履歴のみ、文中、兵法技術用語、朱書き校正は省略。
- 4) 漢文体、及び、旧字であるため、ワードに存在しない字は近似文字を使用、その場合は城郭のように枠で囲みました。
- 5) 朱、薄墨以外の着彩は(手彩)と表示しました。
- 6) 最初の数字は基本ナンバーです、引き合いは大文字と小ナンバーで。
- 7) 本目録作成目的は兵法技術の解明ではありません。川越藩における城制絵図作成履歴、つまり、兵法の伝承ルートの解明にあります。
- 8) 年号は和暦の後に西暦を()内に付与し、1700年代は太字下線、1850年以降は下線としました。(題字除く)

1 嘉永二巳酉年(1849)九月吉日編之

『古先生並高弟衆城制』

武州入間郡三芳野之里川越藩中之臣士 栗間金八源友之

- 1図1 田中先生 木村政貞 追善三回忌之節 之縄 嘉永二巳酉年(1849)七月十六日
- 2図2 常住斎先生縄
- 3図3 常住斎先生縄(手彩)
- 4図4 文化八辛未年(1811)八月廿六日 土州藩岡本十郎左衛門地形 応需而図 井山双柯
- 5図5 文政二年巳卯(1819)三月十八日於東都 本荘 甘縄先生之席上謹図 井山数之助源双柯
- 6図6 戊辰(1809)六月三日 井山双柯
- 7~16図7~16
- 17図17 文政二年巳卯(1819)五月廿九日師祖 北条姓氏長公 一百五十回之忌辰也
依謹一城図奉備 尊靈
安井珍平政章 稽首百拝
- 18図18 維時 天保二年歳舍辛卯(1831)秋七月二十有九日 南街先生 小祥忌辰也今
師木村先生 與門下為

南街先生之靈不肖

祭 幸而得連其末席制一城以獻 田中端八橘真武 稽首百拜

19図19 天保三壬辰年(1832)七月廿九日 井双柯先生三回忌也因制一城以備于尊靈前矣

大藤晋助勝慈再拜稽首

20図20 嘉永二年(1849)歲舍巳酉九月廿有七日

流川松本先生值五十回忌辰與学友制拙紙図一員而以

備于 在天靈前 後学 田中端八橘真武

21～32図21～32

所謂雖有嘉肴不食不知其旨雖有至道不学不知其善宜哉 不肖 浅学而雖知其善未知至善之道是以城制拙而恐入 君子之盾矣蓋城制巧則治世者 治四海乱世者平天下而其本有於道行豈何徒賴甲兵金湯事術之巧哉 于時

天保七年(1836)歲舍丙甲四月中旬 川越藩中田中端八橘真武再拜稽首

2 『栗間金八繩(仮名)巻物』 (1851年)

33図1 嘉永四年辛亥(1851)歲三月 栗間金八源友道 十八日 (手彩)

34図2 (1851)十八日(手彩)

35図3 (1851)同日(手彩)

36図4 嘉永四年(1851)三月十八日(手彩)

37図5 (1851)同日(手彩)

38図6 亥歲(1851)三月廿日(手彩)

39図7 (1851)同廿日(手彩)

40図8 亥歲(1851)三月廿日(手彩)

41図9 亥歲(1851)三月廿一日(手彩)

42図10 亥歲(1851)三月十八日(手彩)

見事二仰出 来被求居御研精之御修力相頭居相 奉候(朱校正)

3 『栗間金八繩(仮名)バラ』

43図1 四月十二日制之 栗間金八

44図2 四月十二日制之 栗間金八

45～54図3～12 (手彩)

55図13 嘉永四年辛亥(1851)歲正月日制焉 其一 栗間金八源友道 (手彩)

56図14 (1851)其二 (手彩)

57図15 嘉永四年辛亥(1851) 正月二日初制 栗間金八

58図16 文久二年壬戌(1862)三月七日因值 厚齋井山先生三十三回忌辰也謹而図

拙哉以奉備祭壇之下在天之靈願受焉 栗間島五衛門友道

59図17 文久二年壬戌(1862)春三月謹而図焉 川越藩栗間島五衛門友道

60図18 癸亥(1863)秋九月廿九日 栗間友道図焉

61図19 癸亥(1863)秋九月朔 栗間友道

62図20 安政五年戊午(1858)正月初寿 栗間友道 (手彩)

- 63図21 嘉永三年(1850)六月図 源栗間友道 (手彩)
- 64図22 嘉永三年(1850)六月制之 何レ茂見事御出来成 うしむらく者 御城制 (朱校正) (手彩)
- 65図23 嘉永四年(1851)三月廿六日制之 栗間金八友道 (手彩)
- 66図24 (1851)同日 (手彩)
- 67図25 嘉永三年庚戌(1850)歳四月二十二日 和田氏之稽古場二において制之 栗田金八
- 68図26 (1850)同日制之 栗田友之
- 69図27 (1850)四月二日 栗間友之 (手彩)
- 70図28 (1850)四月二日 制之 栗田金八 (手彩)
- 71図29 破れ (手彩)
- 72図30 同 (手彩)
- 73図31 (手彩)
- 74図32 十日 (手彩)
- 75図33 (手彩)
- 76図34 自 喜多武 受之 栗間 治 (関が原合戦図の切れ端、松尾山)

4 『縄張図』

- 77図1 広瀬実常縄張 元禄十七年甲申(1704)二月二十四日
- 78図2 寶永三年丙戌(1706)正月十八日 広瀬実常縄
- 79図3 甘縄先生侍講退朝于時微善仮寂瞬息之間夢高祖栢陽先生指示
山川巖險之地有清廟且可其業成而百愉色云覺後乃図其地令君羊
弟子縄焉余亦設一縄以乞示教意先生平素篤学夙夜不懈寤寐思
之神惑其心志而来格与語曰思之而不通神將通之豈不信哉
寛政丙辰(1806)冬十二月 河肥拾遺直恒制之 (手彩)
- 80図4 山名主膳殿縄
- 81図5 天明二壬寅(1782)正月元日 山名禪靈義安
- 82図6 巳未(1800)八月十八日因地形而 安井近司久道図之
- 83図7 松本先生縄
- 84図8 此縄变化二相流可申哉之段
國雄公入尊覽処蔓二実之生
ル意二叶道屋鋪能相分矢故勝
負合面白出来城之旨御意有之
則写差上ル 松本先生縄
- 85図9 此縄甚宜出来写差上候 國雄公被仰開則写差上 松本先生縄
- 86図10 文政改元(1818)歳次戊寅秋七月八日奉命 井山数之助双柯謹図
- 87図11 福嶋定春君地形 文政二年巳卯(1819)三月十八日於東都本莊
甘縄大先生之席上謹図 井山数之助源双柯
- 88図12 天明三年癸卯(1783)正月 松本四郎兵衛
- 89図13 流川松本先生者兵家之先進也 柯也
曾與同志之士遊乎其門親受其教

誨今茲享和壬戌(1802)秋九月二十七日

值先生再祥之忌辰前之一日久道

安井先生自布ル筵テ其亭

以祭之旦微弟子若干輩以

與其祭欲無以忘故先生德

也亦乃與同志之士挥手稽首

90図14 此外郭者松平泉州乘與公所図

而山名豊峯先生応此公之需所

制此外郭而設城柯也唯倣松宮

城制在而松宮俊乃亦唯因図而

於其外郭有大同小異氏所図而

制此図然而外郭之図全用泉州

公所図云 文政元年戊寅(1818)七月十八日 井山数之助双柯 (手彩)

91図15 文化十二年乙亥(1815)正月十六日制 井山数之助源双柯

92図16 文政六年癸未(1823)七月十七日于于城先醒依大祥忌 広瀬実勝伝師命則存

尊靈之地形依之謹敬而図制之 土佐 井上覚太夫直弘

93図17 (1823)同年同月同日 井上直弘

94図18 文政二年巳卯(1819)夏五月二十有九日 鳥羽為介藤原惟文謹制

95図19 元祖大先師百五十回御忌為追福 制一城而奉 尊靈前 井口五平覆圭

96図20 倣故広瀬氏実常先生胡芦形之図

97図21 文化七年庚午(1810)四月二十九日因地形図 井山数之助源双柯

98図22 丁丑(1817)九月十又九日 井山数之助源双柯繩

99図23 此城肥前佐賀侯藩中諫早豊前家土東利助所望二付清書遣

浙江形勢南北有嚴州处州両都

文化丁丑(1817)春正月丁巳因鳥羽君地形 井山数之助双柯制焉

100図24 文化十五年戊寅(1818)四月二日 根村源兵衛業永繩

101図25 文化十二年乙亥(1815)正月十六日倣古人之制而

作八陣図 井山数之助源双柯

102図26 文政六年(1823)六月十八日図制之 伊藤鉄之丞藤原広路(花押)

時癸未(1823)七月十八日

于城尊靈三回之祭忌從当福島先生賜 甘繩先醒之地形而可奉獻城図蒙

貴命依而薰沐再拝 稽首画拙城繩奉備 尊靈之祭具下

103図27 文政六とせという年(1823)の五月十日 より八日ハかしこくも学の御師(以下長文略)

土佐国人 藤原広路 (花押)

104図28 寛政八辰(1796)四月十三日松宮定俊因地形勢之四象常蛇首中尾

戦地十五地五段之意即席制焉

須藤市郎兵衛利久繩

105図29 斎藤武右衛門定友繩

106図30 文政二年巳卯(1819)五月廿九日因 先師一百五十年奉備 安井珍平政章制

107図31 長俊

108図32 寛政十三年辛酉(1801)孟春八日 含五段之習初図焉 木村央源政貞

109図33 田中端八真武繩 (手彩)

110図34 天明元年丑(1781)歳松宮左忠長俊所設地形也

文政十二年巳丑(1829)正月十四日 田中端八真武初制(手彩)

5 『縄張図』

111図1 安政三年丙辰(1856)十二月(以下欠)(図欠)

112図2 大藤小金吾光翼縄(手彩)

113~121図3~11 (手彩)

6 『縄張図』

122~129図1~8

7 『縄張図』

130~165図1~36 (手彩)

8 『縄張図』

166図1 (手彩)

167図2 天明六丙午(1786)正月初制図 横矢勢四象(手彩)

168図3 長俊松宮氏地形(手彩)

169図4 (無地)

170図5 市川源六郎源克昌縄

171図6 克昌縄

172図7 於戲邈矣

北条房州栢陽先生之指館也距今一百五十年日月流萬逝者不還然感潛焉 痛恭惟先生德義嶽崇究韜略之淵源以弼軍政於 国朝繼而有師命俾為兵家伝統之宗師以行教テ天下是以威武權勢併隆 国寵殊渥美譽溢テ海内可謂不顯之德益喜之功也是以昔曜今光少無欠缺至今韜鈴之士苟高確正兵要義者咸無不沐其高德者所謂武德体明没而著者也縣縣瓜瓞蕃衍椒[卍]遺德其大矣哉当今幕府軍師

福嶋先生者 栢陽先生之裔也其称福嶋者 栢陽先生之同姓故也[卍]纂其家學不指名聲[卍]姿乎純確乎操能誘能教[卍]業咸熙是以門生嘔喩而積其流慶仰受其教矣今茲巳卯(1819)夏五月恭設忌斎渴尊肅之敬祭祀

栢陽先生之 高靈[卍]蕃行潦時薦匪鮮川越臣 定親 繼父之業亦幸私淑而與聞遺教是以忘固陋残拙力制城郭一図襲敬以泰於

栢陽先生之靈牀不顧瀆 冥監之罪[卍]陳鄙誠以代尊饋云爾

173図8 文政二年巳卯(1819)夏五月 原 弥五八定親稽首百拝

174図9 寛政十戌子(1799)年春正月七日 五段之習及四象龍門制

175図10 寛政十二年庚申(1801)陽月上澣三日奉值大塊先生初七之忌日而設一城謹而以
獻其 尊靈前焉 設四象龍門図焉 木村央源政貞

176図11 天保二年(1831)歲次辛卯正月四日因 易經図焉 田中端八橘真武初制

177図12 維持天保辛卯(1831)春正月五日初制 佐々倉又八郎源正名

178図13 文政丁丑(1817)秋八月二六日因地形制 井山数之助双柯

179図14 文政六年癸未(1823)秋七月十有八日

甘繩故大先生福島源公三回忌辰也 川越藩臣井山数之助双柯稽首百拝

180図15 直恒公御繩

181図16 維時

天保二年(1831)歲舍辛卯秋七月二十有九日

南街先生小祥忌辰嗚呼哀哉 末弟子真武 追念往事慈愛恩惠矣蓋

先生志于聖學且能兵法焉以教授一藩士為任矣實先輩不及于

先生之術者多有功於其道也不可勝言也 武也 受業於

先生之左右始二十年微志画欲窮其道不肖愚鈍而慙不能入於門庭伏願

先生之靈令獎勸不肖以窮其道於是乎謹制紙図三員而供

靈前尚 饗 田中端八橘真武 稽首百拝

182図17 正德五年乙未(1714)正月二日

広瀬実常先生被 初制因于其本城俯而制 一城以奉備 井山了蔡先生靈前

183図18 是歲天保癸巳(1833)秋七月十有八日適值

甘繩先生之十三週忌嗚呼哀哉伏惟

先生卓以其家學鳴於天下久矣其為術也一以先聖王仁義之兵為主意與世之

兵學者流大有徑庭矣以故入門之徒遍乎四方轟々大盈于天下云及其沒也

高弟子教授四方者亦不為鮮矣吾藩厚齋井山先生亦其人也 真武 不肖遊

厚齋先生之門而私淑

先生之道十有餘年 真武 固雖至愚以孜孜汲汲不怠之故將矚僅其門庭似有得
其一二焉是亦

先生之恩惠也豈可不仰慕尊崇哉於是乎作城図三員而恭供于

先生靈前嗚呼

先生在天之靈尚饗

田中端八真武百拝稽首

184図19 其二

185図20 其三

186図21 維持天保四年癸巳(1833)孟秋中旬八日

兵家北條流正統福甘繩大先生十有三回忌辰也

嗚呼 愚哉 不肖在其流下而邂逅與聞其教是以今

茲 尊靈不顧 冥監之罪含五段之意而固陋拙

力之制一城郭以奉備 尊靈儿上聊加追福之端

川越藩臣 佐佐倉源正名 又八郎 稽首百拝

187図22 天保四年癸巳(1833)秋七月十八日

福甘繩大先生十三回忌辰也

謹而拙城制一図以奉備

尊靈前也 川越臣 佐々倉又八郎正名 百拝

188図23 渡辺左次兵衛源孝

189図24 和田貢忠愛繩

190図25 和田貢忠愛繩

191図26 和田貢忠愛繩

192図27 天保四癸巳年(1833)七月十八日

甘繩故大先生福島源公十三回忌辰也因

謹画一城図以奉備 尊靈位前云爾

川越藩士 大藤晋助藤原勝茲 稽首再拝

193図28 川越臣 安井與左衛門政章稽首百拝

194図29 天保四年(1833)秋七月十八日奉値

福甘繩大先生君十三回之忌辰而設一城

謹而以献於其 尊靈前焉

川越臣 木村央政貞稽首百拝

9 安政二年乙卯（1855）三月制之 栗間友道

195～199図1～5(手彩)

10 『縄張図』

200図1 其一

201図2 其二

202図3 其七

203図4 其八

204図5 其十一

205図6 其十二

206図7 其十三

207図8 其十四

208図9 其十五

209図10 其十六

210図11 其十八

211図12 其十九

11 『縄張図』

212図1 七月十八日制其一

213図2 二

214図3 五

215图4 六
216图5 七
217图6 八
218图7 九
219图8 十
220图9 十一
221图10 十二
222图11 十五
223图12 十六
224图13 十七
225图14 十八
226图15 十九
227图16 卅
228图17 卅一
229图18 卅二
230图19 卅三
231图20 卅四
232图21 卅五
233图22 卅六
234图23 卅九
235图24 三十
236图25 卅一
237图26 三十二
238图27 卅三
239图28 卅四
240图29 卅五
241图30 卅六
242图31 卅七
243图32 卅八
244图33 卅九
245图34 四十
246图35 四十一
247图36 四十二
248图37 四十三
249图38 四十二
250图39 四十三
251图40 四十四
252图41 四十五
253图42 四十六

254図43 四十七
255図44 四十八
256図45 四十九
257～295図46～84
296図85 九[月]八日制之栗間友道
297図86
298図87 十月三日井口三司與改
299～323図88～102
324図103 丙寅(1806)仲夏四日
325図104 丙寅(1806)五月五日
326～330図105～109
331図110 丙丑春四月
332図111 甲子(1804)六月日 栗間友道
333図112 甲子(1804)六月日 栗間友道図焉
334～338図113～117
339図118 (朱校正)

1 2 『縄張図』

340図1 田中先生御縄
341図2 田中先生御縄
342図3 享和三癸亥(1803)年冬十月廿一日
因地形 井山数之助双柯
343図4 文化七年庚午(1810)之歳夏五月十有九日
因地形 井山数之助双柯
344図5 文政三年(1820)歳在庚辰夏五月
川越隠士 鳥羽為奨惟文
345～346図6～7
347図8 (朱校正)

以上、1～12組、347図